

日々の田高（本校公民科の宮崎先生が、東京新聞にて紹介されました。）

本校の公民科の主幹教諭である宮崎先生が、東京新聞にて紹介されました。

宮崎先生は、「教育に新聞を」NIEによる教育を推進しており、今回の記事は、その一環によるものです。高校生と社会をつなぐ、切り口としての新聞の活用に、どう教師が向き合うのか書かれていますので、ぜひお読みください。

東京新聞のNIE

## スマホ抜きには語れない

ぱらぱら  
じゅくり  
NIE 教育に新聞を

ニュースへの関心が薄くなったといわれる今の高校生たちの「情報収集」は、どんな実態なのか。現役の高校教師から話を聴く会合が1月23日、東京・内幸町の日本プレスセンタービルであった。新聞活用教育を支援する全国各地のNIE推進協議会事務局長らが参加した。

「若い社会科の教員が新聞を読んでいる」といふ時代になってきている中で、どのようにNIEをやっているか悩んでいると話す。

講師に招かれたのは、新聞活用や主権者教育の経験が長い都立田園調布高校の宮崎三喜男主幹教諭。冒頭から深刻な教育現場の実情が明かされ、会場には少し沈痛なムードも漂う。学ぶ生徒たち以前に、学ばせる側の、それも社会科（高校は公民科と地理歴史科）の先生たちが新聞から遠のいている。

もちろん読んでいる先生もいる。しかし社会の先生といえば、授業で新聞をたぐみに活用して子どもたちに「社会への目」を開かせてきた人たちが。「きょうはこんな記事が載ってたよ」と授業で教えてくれたあの社会の先生たちは、どこへ行ってしまったのだろうか。

高校生の日常について宮崎教諭は「スマホ抜きには語れない」とこつこつ続けた。「新聞のほうがいいと言われますが、高校生や子どもたちはスマホ中心の生活をしているので、この大前提に立ってNIEを見つめ直したほうがいい」

### 民主主義の大切さを次世代に



「教師が『面白くない』と思っ  
た記事を一  
番いい」と話  
す宮崎教諭  
=日本プレ  
スセンター

#### 田園調布高の宮崎教諭

宮崎教諭はイスラエルのガザ侵攻をテーマに、情報を「新聞」「ネット検索」「SNS」から収集する3チームに分かれて授業を組み立ててみた。情報の信ぴょう性や報道のあり方を考えさせたが、新聞を読む重要性についての意識は、授業の前後で大きな変化がなかった。生徒たちは「SNSは信用できないと分かっていたながら使っていた」。1人1台端末の時代だが、調べ学習でノートパソコンを開くより「生徒の現状はまずスマホで検索という世界」なのだという。

それは大人も同じかもしれない。

宮崎教諭は「正しい情報に基づいて判断することが大事で、その力を養わせるのが社会科の教師の役目」とあらためて強く感じているという。「SNSに対する評価の軸は娯楽性や手軽さ。新聞とは同じ土俵で比較していない」とも。

NIEの今後については「新聞を使うとどんな資質・能力が身につくのか、そこに立ち戻る必要がある」と話した上で「時間をかけて新聞に触れさせていくことが大切。新聞同士の読み比べもいいが新聞とそれ以外のメディアを比較することで情報の質と利便性を考察させたい。そうして得た情報を再構築するよくな授業を」と提言した。

(東松充憲)

令和7年2月18日付 東京新聞 朝刊より